



共創

NO 2 (5月号)

令和4年4月28日発行

先日の出来事です。昼休み、下級生の子の帽子が目当たったと、5年生の男子児童が目を押さえて保健室に来ました。どうしてそうなったのかを聞くと、5年生は「俺がモチモチだからじゃない？」と笑いながら言いました。「ああ、なんてやさしい子なのだろう」と思いました。決して3年生のせいにはしません。そればかりか「大丈夫だよ。」と、安心させようとするのです。そして、手当が終わると、大きな声で歌いながら笑顔で教室に戻っていきました。そんなあたたかな子どもの姿に嬉しくなりました。

学校では、こうした子どもの姿に出会うことがあります。「気持ちがいいから」と、毎日トイレのスリッパを整頓している子。雨の日、玄関前で傘の滴を落としてから校舎へ入る子どもたち。傘をすぼめられない1年生にやさしくやり方を教える6年生。何気ない日常の出来事の中にこそ、その子のすてきな表れや意外な一面、成長や変容を感じるのです。大切なことは、そんな表れを、傍にいる私たちが感じるかどうかです。上の出来事も、聞き流してしまいがちなひと言です。「この子のことをわかりたい」

「この子と信頼関係をつくりたい」「この子が愛おしい」そう思っていると、何気ない言葉や表情、仕草に気づき、「いいなあ。〇〇さんらしいな」と感じるのです。



何気なく気づいた表れに「すてきだね」「やさしいなあ」と声をかけると、子どもは少し驚いて、にっこり笑います。「先生はちゃんと私のこと見てくれるんだ」「わかってきているんだ」と安心するのでしょうか。こうした営みを重ねていくと、子どもは心を開き、その子らしさを思う存分に発揮するようになります。

鳴門教育大学の久我直人先生が実際に多くの学校を回り、たくさんの子供たちの声を聞き、分析すると、子どもたちが信頼する先生は次のような先生だとわかりました。

- ① 先生は、自分のことをわかってくれる。(よさや頑張りを認めてくれる・相談できる)
- ② 先生は、自分のことを信頼してくれる。(やればできると信じてくれる)
- ③ 先生は、きちんと指導してくれる。(授業がわかる・誰にも公平にきちんと叱ってくれる)
- ④ 先生は、いつも前向き。(失敗しても平気・励ましてくれる・笑顔でいつも元気)

このことは、教師だけでなく、保護者の方にも言えるそうです。

- ☆ **自分のことをわかってくれる親** (いつもちゃんと自分のことを見てくれている。)
- ☆ **自分のことを信頼してくれる親** (自分の考えを聞いてくれる、大切にしてくれる。)
- ☆ **きちんと指導してくれる (叱ってくれる) 親** (人と比べない。言うことが一貫している。)
- ☆ **いつも前向きな親** (失敗しても気にしない、思い切り楽しもうとする、引きずらない。)

子どもは、毎日、親や教師が何気なくかけている言葉を聴き、話している時の表情を見て、「わかってきているな」「信じてくれているな」「信用できるな」「前向きだな」と感じています。ふとした子どもの素敵な姿に気づくこと、そして、あたたかな言葉をかけること。そんな思いで子どもに寄り添っていきたいと思います。(校長 小林 正宣)